



中学校部活動の 地域移行の取り組みは

武藤 正信（創風）



問／部活動の地域移行が進められる中、令和4年12月に国が示したガイドラインを踏まえ、令和5年4月に「上越市部活動指導ガイドライン」が改定された。具体的にどのような取り組みをするのか。

答／令和5年4月に、子どもたちが求める活動とのマッチングを図る機会を提供するため、33のスपोर्टス団体と4つの文化団体が参加した「地域クラブフェア」を開催し、11月には2回目の開催を予定している。また、同じく11月18日に開催する「上越市教育コラボ学び愛フェスタ」では、市内の生涯学習団体の活動紹介や体験ブース等の出展により、子どもたちが幅広い文化芸術活動に触れる機会を設け、自分のやりたい活動を見つけてきっかけづくりとなることを期待している。



市の米政策への取り組みは

問／令和5年度の米の仮渡金を踏まえて、市の米政策にどのように取り組んでいくか。

答／国に対して需給調整や資材価格の安定対策を求めるほか、関係機関等と連携して当市に適した米生産や販売の方向性などを検討する。



「デジタルミュージアム」 の実現に向けて！

杉田 勝典（公明党）



問／文化財や歴史的資料を3DやVR画像にして、インターネット上で閲覧出来る「じょうえつデジタルミュージアム」を開設してはどうか。

答／デジタルミュージアムは、公共への資料価値の共有が期待され、資料のデジタル化を進めていく中でその趣旨の実現を図りたい。

外国人市民が暮らしやすい地域へ！

問／市長は外国人が多く住む群馬県太田市や伊勢崎市を視察したが、どう施策へ生かすのか。

答／庁舎内のふりがなによる案内表示や、外国人相談窓口の設置、日本語指導に従事する職員の任用など、様々な事例を参考に、外国人に寄り添った取り組みを進めたい。

レガシー形成事業と通年観光計画の連携を！

問／観光庁のレガシー形成事業や地元団体と連携して通年観光を盛り上げてはどうか。

答／国との意見交換の場で、地元の声や通年観光計画の検討内容を伝えて連携を図りたい。

建設業「2024年問題」へ働き方改革を！

問／長時間労働や人手不足の課題解決に向けて、働き方改革や適正な工期設定などを目指しては。

答／業界団体や個々の企業への対策が不可欠であるため、関係機関と連携して取り組みたい。



医療再編を地域医療充 実のチャンスに！

高橋 浩輔（みらい）



問／新潟労災病院の機能低下の根本的な課題は。

答／労災病院や県などと連携しつつ最大限努めてきたが、医師の確保が進まず診療体制の縮小を余儀なくされたことである。

問／仮に新潟労災病院の閉院は避けられないとしても、その地域に何らかの形で「医療を残す」ことは大切である。新潟労災病院の施設を、上越地域医療センター病院の「分院」として活用できないか。分院単体での運営が難しいければ、例えば開業する医師が建物の一部を使用するなど、分院を核として複数の事業主が共同で活用することはできないか。また、新たな感染症の出現に備えて設備を整えておき、有事の際には医師が集合して対応する県立の感染症棟や、介護と医療を一体的に提供する「介護医療院」としての活用もできるのではないか。

答／提案された事項も含めて、今後の医療構想調整会議の中で検討していきたい。

問／医療再編は、上越地域の医療の質をさらに向上させる大きなチャンスである。市として今後どのような医療提供体制を目指すのか。

答／「地域の柱となる病院」を中心に、必要とされる医療が地域全体で一体的に提供される体制が具現化され、上越地域において医療を完結できる状態を目指していく。